

令和7年度第2回いわき市医療センター病院経営評価委員会議事録

- 日 時 令和8年1月29日(木) 午後6時30分～午後8時20分
- 場 所 いわき市医療センター 1階 きょうりつ講堂
- 出席者
 - 1 委員(出席:9名)
赤津 雅美、飯塚 修一、片寄 睦美、加藤 尚子、齊藤 道也、坂元 和子、
新家 利一、高萩 周作、原口 英明
※五十音順・敬称略
 - 2 事務局
新谷病院事業管理者
杉院長
関根副院長兼看護部長
緒方事務局長
吉津次長
 - ・経営企画課
鈴木課長、佐藤統括主幹兼課長補佐、
横山課長補佐兼企画広報係長、久野主事
 - ・総務課
鈴木課長
 - ・医事課
根本課長
 - ・施設管理課
大須賀課長
 - ・情報システム管理室
藤本室長
- 配布資料
 - ・(資料1) 令和7年度第1回いわき市医療センター病院経営評価委員会 議事録
 - ・(資料2) 令和7年度の12月までの病院経営状況について
 - ・(資料3) 「いわき市病院事業中期経営計画(2024～2027)」の改定について
 - ・(資料4) 「いわき市病院事業中期経営計画(2024～2027)」の改定について 概要版

1 開会

2 報告

事務局から、資料1「令和7年度第1回いわき市医療センター病院経営評価委員会 議事録」に基づき、報告した。

3 議事

(1) 説明事項

令和7年度12月までの病院経営状況について

事務局から、資料2「令和7年度12月までの病院経営状況について」に基づき、説明した。

[委員からの質疑・意見等]

● 医業収益・評価指標について

(委員)

医業収益のうち、外来収益が前年度に比べ上昇している要因は。

(事務局)

注射料収益の増加が主要因だと分析している。特に、高額な抗がん剤の使用量が増加し、償還分で医業収益が増加している一方で、医業費用に計上する薬品費の増加も懸念している。

(委員)

産科の入院収益について、少子高齢化による分娩数の減少が進む中で、産科の収益は減少していく見込みか。また、減収に対する改善策は何か考えているか。

(事務局)

このまま状況が変わらなければ、産科の収益は下がると見込まれる。

改善策としては、産科病棟の一部を一般病棟と混合する、いわゆるユニット化し、病院全体での収益性を上げていくことなどがアイデアとしてはあるものの、令和8年診療報酬改定で産科に対する新たな評価がつく見込みであるため、改定による収益の増加や市内の産科医療機関の診療体制、当センターの患者数などの動向を注視し、今後のあり方を考えていく。

(委員)

本市における入院患者は70歳以上が多く、今後も高齢化が進み、若年層の患者は減ってくると思われるが、当センター受診者の年齢分布等のデータは分析しているか。

(事務局)

電子カルテ等、院内のデータや各DPC病院が公表しているデータなどで分析している。

(委員)

診療科別や症例別の年齢分布を分析し、高齢者率が多い診療分野を重点的に強化していくというのも一つの戦略だと考える。

● 医業費用について

(委員)

職員が育児休暇を取得している期間はどのくらいか。また、育児休暇を取得する性別構成に変化はあるか。

(事務局)

男性職員が育児休暇を取ることが近年多くなってきており、男性職員の育児休暇は1か月から2か月間取得することが多い傾向である。

看護師の育児休暇取得の状況について、物価高等の影響があるのか、近年は、当初3年で育児休暇を申請していても、1年で復帰する職員が多く、以前より育児休暇取得期間が短い傾向にある。そのため、数字上、看護師の数が多く、育児休暇から復帰しても、夜間勤務を行うことは難しいという看護師が多く、夜勤人員の確保に苦慮している。

(委員)

看護師について、急性期一般入院料1（看護配置7対1）の施設基準上の必要人数は、十分に満たしているのか。また、570床を利用できるほどに看護師は増加したのか。

(事務局)

看護配置7対1の施設基準上の必要人数は、当然満たしており、今後も7対1を維持していく考えであるが、働き方改革の取組みとして、2交代制の実現をしようとすると、現状の人数では足りない。

また、夜勤人員がなかなか増えていないことから、570床利用できる状況ではなく、現在の532床を満床にしていくことを目標にしている。

● その他

(委員)

クリティカルパスの見直しについて、経営の安定化だけでなく、医療の質や病院の魅力も向上させる必要がある中で、どのような考え方に基づくものなのかを確認したい。

(事務局)

今回の取組は、国が進める在院日数の縮減化などの方向性を軽視するものではなく、診療内容や患者の状態に即した形で、クリティカルパスをより適切に運用していくことを目的としたものである。早期の社会復帰や効率的な医療提供はこれまで同様重視していく。

また、この取組は収益の増加のみを目的としたものではなく、患者の治療状況や希望を十分に踏まえながら、より望ましい医療提供のあり方を検討する中で行うものである。今後も、新規入院患者の確保が経営上の基本であるとの認識のもと、医療の質と経営の両立を図りながら、より精微なクリティカルパスの運用に努めていく考えである。

(2) 協議事項

「いわき市病院事業中期経営計画（2024～2027）」の改定について

事務局から、資料3「『いわき市病院事業中期経営計画（2024～2027）』の改定について」に基づき、説明した。

[委員からの質疑・意見等]

● 経常黒字化に向けた具体的な取組みについて

(委員)

定年延長職員（プラチナナース等）の利活用について、他病院では、看護体制を継続させるため、プラチナナースを有効に活用していくという動きもある中で、プラチナナースを看護業務以外の業務に移す検討をするのはなぜか。

(事務局)

プラチナナースには、夜間勤務という点で課題があると考え、このような取組みを試みようと考えている。

60歳付近の看護師は、病棟師長等管理職であることが多い。その場合、夜間勤務がない管理業務に従事しているため、60歳以上のプラチナナースが若年層の看護師と同頻度、同レベルで夜間勤務ができるかという点で懸念があることから、看護業務以外の利活用方法を検討したところである。また、業務委託により行っている業務をプラチナナースが行うことで、委託料の経費が削減できる効果も期待している。

● 収支見通し・評価指標について

(委員)

地域の看護師不足が続く中で、今後の地域医療体制の維持・充実という観点から、例えば、プラチナナースを地域の医療機関に派遣するなどの考えはあるか。

(事務局)

今後も定年年齢が段階的に延長する中で、プラチナナース活用のあり方は、引き続き検討していく必要があると考えている。

一方で、60歳でいわゆる役職定年を迎えた後、普通退職し、他の医療機関での勤務を希望する職員も一定数いると考えている。そのような場合に、当センターとして支援できる点があれば、可能な限り協力していきたいと考える。

(委員)

R8診療報酬改定について、個別改定項目が出たが、当センターへの影響はどのくらいか。

(事務局)

今回の診療報酬改定の肝は、賃上げ・物価上昇対応として新設、変更される診療報酬の加算等を遺漏なく取得していくことであるが、今回の改定だけで収支均衡化することは困難であると見込んでいる。

4 その他

委員の任期が令和8年3月末までとなっていることから、2年間にわたる当委員会の円滑な運用について、加藤委員長から謝意が述べられた。

5 閉会